

## ★紹介コーナー No.2

**「歩いてみませんか歴史の道」神奈川区いまむかしガイドの会**

「NPO 法人 神奈川区いまむかしガイドの会」は、ミレニアムと騒がれた西暦 2000 年(平成 12 年)に歴史散歩のガイドをする会としてスタートし、16 年が過ぎようとしている。現在では毎回 150 名前後が参加しているそうだ。横浜市内には、歴史散歩の団体はたくさんあると聞くと、その中でもこの会は、参加者数、コース数とも、かなり規模が大きいほうではないかと思う。会の成り立ちや運営などについて、会長の能條昭さん、副会長で企画・広報部会長の後藤輝夫さん、企画・広報副部会長の長谷川純代さんにお話を伺いました。

**始まりは区が募集した「神奈川区いまむかし塾」**

本牧三溪園に隣接する横浜市八聖殿郷土資料館を案内する

平成 10 年当時、神奈川区は、東海道宿駅伝馬制度が平成 13 年に 400 周年を迎えるにあたり、神奈川宿の歴史や史跡を案内する人材を育て、区の活性化や“まちづくり”にもつなげようと、ボランティアガイドの養成講座「神奈川区いまむかし塾」を企画し、受講生を募集した。受講生たちは、横浜・神奈川の歴史研究の専門家の先生たちから、2 年近く研修を受け、ガイドに必要な知識などを習得した。そして、修了者のうちの 25 名により、平成 12 年 11 月

に、「神奈川区いまむかしガイドの会」が設立され、活動が始まった。

**ガイドコースは 40 以上、リピーターが 8 割、定員はなし**

16 年間の間に、活動は成長、拡大していき、現在、歴史散歩のコースの数は 42、さらに新コースが加わり増え続けている。当初、ガイドを務める会員 25 名で始めたのが、現在は 44 名。ガイド 1 名で平均 10 名の参加者を引率する。新人ガイドの場合にはもう一人ベテランが付くとのこと。

半期ごと 9 回、年間で 18 回催行されていて、今年春のコースでは 1 回の平均参加者数は約 140 名、新コースだと約 170~180 名も参加するそうだ。昨年の参加者は企画ガイドだけで年間合計 2000 名を超えたという。また、今年の春は家康没後 400 年にちなんで「東海道宿場シリーズ」4 コースを打ち出した結果、春のコース全体として過去最高の参加者数を得たそうだ。毎回、参加者に簡単なアンケートをお願い

いしているのです、その分析結果から分かったのは、リピーターが 8 割。年齢層は高齢社会を反映してか、なんと 8 割以上が 60 代と 70 代で占められている。

この会の最大の特徴と思われるのは、定員がないことだ。そのため、申込み＝受付となるので、会から返事は来ない。当日の4日前までに、ホームページからのメール、ファックス、ハガキで申し込みばよい。集合には時間に余裕を持っていくことが大事で、コース案内に記載されている時間は最終出発時刻なので、それよりは 30 分以上前に待機している必要がある。参加費 500 円(資料代、保険料含む)を受付の際に支払う。

## 心がけていることはガイド品質の向上

心がけていることは、何と言っても、ガイド品質の向上だと、能條会長は強調する。ガイドは、ガイドとしての知識を習得し、適切に案内できることは当然のこととして、さらに他にも様々な心配りが必要だという。例えば、案内地域の防災拠点、津波避難施設、AED 設置場所等を事前に把握し安全を最大限にはかること、受付待ち時間の短縮化、多人数の移動の効率化など、そうしたことも参加者への「おもてなし」の一環として心がけることが求められる。改善やさらなる向上への努力は際限がないと思えるそう。

次期半年分 9 回のコースの計画は、4 か月前の会員全員へのアンケート実施から始まる。これにより各会員は自分の希望を表明できるようだ。コース決定会議、コース担当者の会議、案内の印刷など、様々な過程を経て、次期 9 回分のコース案内が登録者へ 1 か月前までに到着するようになっている。その数 1100 通以上で、半数以上が神奈川区以外とのことだ。

歴史散歩は野外を歩くため、天気に左右される。好天気であれば、申込み数に近い参加が見込まれるが、降雨の次第で約 3 割～5 割減になるようだ。用意する資料の数、役割や人数の割り振りなど、そうしたことも、これまでの統計数値と経験で、大体の予想をつけて対応できているそう。

## 退職後の第 2 の人生へのきっかけとして

会の基本理念なるものを尋ねたところ、たくさんのキーワードが並んだ—高齢社会、生涯教育、社会参加、健康づくり、まちづくり、観光資源の活用…。その中でも特に、退職し会社を離れた団塊の世代の人々が、地域社会へ参加し、第 2 の人生を始めるきっかけとして、こうした会の活動がお役に立てれば、さらに、団塊の世代の人々が今まで培った経験、能力が地域社会で活かされ、社会の活性化も進む一助になれば、という強い思いがあるようだった。

お話を伺った 3 人の方々も 60 代、70 代とお見受けした。企画・広報副部会長の長谷川さんは、前回ご紹介した「神奈川歴遊クラブ」の小谷さん、加藤さんと同様で、2011 年に神奈川県歴史博物館のボランティアガイドを始めたものの、県歴博ガイドは任期 5 年間だけ、ガイドをし続けたい思いから居住区の神奈川区役所に問い合わせ、この会を探し当てて入会したとのこと、現在 4 年目。副会長で企画・広報部会長の後藤さんの場合は、同じ町内会にいたこの会の発足当初からの会員から、奥さん経由で「今、募集中、入ったら」と誘われたので、歴史に興味はなかったが、生涯学習のつもりで入ったそう。会長



東横フラワー緑道 反町駅付近で。黄緑色の野球帽がガイドさん

の能條さんも2006年から県歴博でガイドを始めたが、その翌年にこの会の募集を知って「まち歩きガイド」も面白そうだと思って申し込んだそう。後藤さんと能條さんは2008年1月入会。会長は能條さんで3代目である。16年前の発足当時の会員は現在7名在籍とのことで、世代交代も進んでいるようだ。NPO法人にしたのは、昨年、平成27年4月のことで、まだ間もない。

## 活動に終わりなく、日々研鑽あるのみ

高齢者や身体の多少弱い人でも参加できるように「ゆっくりコース」を3年前から始めた。野仏や石仏を満喫できる里山シリーズ、東海道宿場シリーズ後に始めた脇往還シリーズなど、新シリーズ・新コースの開発、また従来コースの見直しなど、会の仕事は尽きない。能條さんは「初めての参加者を増やしたい。開催日を土曜日にしているので、会社勤めの人も参加できると思うので、もっとPRが必要かもしれない。」と語り、活動への熱い取組みに終わりはなさそうだ。

会のホームページには通常の「企画ガイド」のほかに、特定の団体の案内をする「依頼ガイド」、地域の歴史講座などに講師を派遣する「依頼講座」についての記載もあるので、ご興味のある方は「神奈川県いまむかしガイドの会」のホームページをご覧ください。(平成28年秋の案内は右列上部に掲載)

聞き手より: 一度に100名以上も参加する歴史散歩はどのようなものだろう? という興味があり、9月3日(土)催行の「保土ヶ谷道」に参加させていただいた。集合場所の天王町駅前の公園には黄緑色の野球帽を被った会員さんが30名以上いて、8時半から一斉に受付が始まり、班分けが行われ、人員が決定した班から次々と出発した。私たちの班は9人だった。多分1,2分の時間差で班が進み、すれ違うことはあっても、重なることは殆どなく、効率よく進む。要所要所に会員が待機していて、交通整理や、危険個所で注意を促してくれる。これならガイド1名でも無理なく案内できるのだろうなと納得した。また、歩く速度、休憩時間、休憩場所なども年配者の体力に十分に配慮されていた。さすが16年間の積み重ねのうえに今日の姿があるのだな、と実感させられた。(渡辺登志子)